

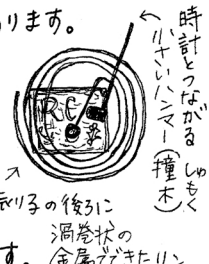
# ポーンポーンポーン♪

訳: 3時の  
おやつだよ

荒田珈琲  
新聞 Vol.48

2022.5.19(木)

荒田珈琲の真ん中にある振り子時計は知人から譲り受けたものです。昭和中～後期のCITIZEN製クォーツ式で、もともとは知人のお母様が長年愛用されていました。「大きな古時計」の歌のように主がいなくなった部屋で10年以上止まったままでいたそうです。ご縁があって荒田珈琲にやってきました。毎時ちょうどにポーンポーンと時の数だけ、30分にはポーンと1回鳴ります。12時には12回。かなり長いこと鐘を打ち続け、大きく響くので驚かれる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は音が出ないように渦リンを打つ撞木を止められるのですが、壁に掛けるとき店主と相談してそのままにしました。単純にすてきな音色なのと刻みから解放されてゆったりと過ごす珈琲時間に鐘が鳴ることで「いま」をふっと思い出すりマインダーとして一役買って考えると考えたのです。金属でできたリン



余談ですが、窓際の棚に置かれたミレーの「晩鐘」は夕方の鐘が鳴り響くなか、農夫婦が祈りを捧げる姿を描いています。ところ変わって会津へ行くと、毎日6時と11時半と16時に音楽が鳴ります。「畑へ出る頃」と「お昼休憩」と「仕事の終わり」を告げるメロディを耳にあるときおあらかな大地と生きる人々を描いたミレーの絵を思い出します。

聞こえるのは時計のチクタクだけ...という渋い喫茶店を訪れると、しんと静かな落ち着いた空間もいいなあと思えます。ただ、カップを置く音も緊張するような静寂は多様な皆さまが利用する町の珈琲屋にはあまり似合わず、ほどほどに音楽が流れ、たまにヨナが粗相をしても目立たず、ときどきポーンと鳴るぐらいの雰囲気がい心地良い気もしています。鐘の音色を楽しむもよし、「次の鐘が鳴ったら行くか」とアラーム代わりにするもよし。そんな名脇役の振り子時計は働き者です。荒田珈琲とともに第二の時計人生が幕を開けたのでした。

**続**  
●余談● 自宅ぞ眠ったままの振り子時計がもうひとつ。こちらはもっと古い手巻きのゼンマイ式で、どこかが壊れて動かしません。古時計のオーバーホールをお手伝いできる職人さんを探す作業と費用とにらめっこして迷っているうちに食料品となってしまいました。店で活用される日が果たして来るでしょうか...? 来るといいな。



気温が上がって休眠から目覚めた植物たちが花を咲かせ、新しい葉や枝を伸ばしています。玄関ドアの近くではハイビスカスが次々と蕾をつけて大輪が開くと圧巻です。秋ごろまで長く楽しめる花木にも注目してくださいと喜んで、「よし! もうひと花咲かせてやるか...」と頑張ってください。たぶん... (笑)

**Quiz** クイズ ☆ 計算してみよう!  
振り子時計は1日に何回鳴るでしょうか?